

# 白山国立公園における企業としての取り組み〜外来植物対策での事例紹介〜

アルスコンサルタンツ株式会社 技術二部 部長 稲葉弘之

## 一 はじめに

白山は御前峰を主峰（二、七〇二m）とする山岳地域の総称である。白山国立公園は富山、石川、福井、岐阜の四県にまたがり、その白山を中心に東西二〇km、南北四〇kmにわたる。白山は富士山、立山とともに日本三名山として、古くから山岳信仰で栄えた山として知られている。また高山植物の宝庫としても知られ、「花の白山」とも呼ばれており、夏期にはあちこちに美しい花畑が見られる。

## 二 白山国立公園での外来植物問題とその対策

近年の登山者の増加等に伴い、外国原産や低地性の植物等の本来、白山国立公園に生育していない植

防ぐための種子除去用の足拭きマットの設置、山小屋、登山道などでの除去活動、地元イベント時のパネル展示などの普及啓発活動を実施している。

## 三 除去活動への企業としての参加

物（外来植物）の分布が拡大している。その結果本来、白山国立公園に生育する在来植物と外来植物との交雑、雑種の形成による生態系への影響が懸念されている。外来植物の主な侵入要因として、登山者の衣服、靴から、ヘリコプター運搬の資材に付着し、意図せず種子が持ち込まれた事例の他、フキを食用に植栽するなど故意に持ち込んだ事例もある。

白山での外来植物対策は環境省、国土交通省、農林水産省が自然公園法に基づく白山生態系維持回復事業において対策を実施している。また、NPO法人環白山保護利用管理協会、石川県白山自然保護センターが同事業の実施団体として全国で初めて認定を受けて、活動している。具体的な活動内容として、外来植物種子の侵入・拡散を

当社は総合建設コンサルタン会社として、これまでに社会資本整備、防災計画、環境影響評価等の技術を培ってきた。このような

技術を積極的に地域に活かすために社会貢献活動の一つとして、平成一九年から白山国立公園での外来植物除去活動に参加した。当初は個人レベルでの参加であったが、翌年からは特に当社が有する野生動物植物に関する技術を活動に活かせられればと考え、活動の企画、運営に関わり始めた。

- 企業の特色を活かした活動内容
- フリップボードを用いた外来植物問題の解説（プレゼンテーション技術）
- 除去対象となる外来植物の見分け方の解説（植物に関する専門知識）
- 専門知識を活かした除去方法の

提案（植物に関する専門知識）  
○ 除去活動の実施体制の構築（コーディネート技術）

このように、企業の特色を活かした企画を追加して、より良い活動になるよう日々工夫している。また、参加社員が活動を通じて他の企業、団体、行政と関わりをもち、コミュニティの拡大、ヒューマンスキルの向上につながればと考え、平成二二年からはさらに関連企業などに参加を呼びかけ、参加者の拡大を図った。特に登山を伴わない市ノ瀬での活動の充実を図り、登山経験のない人でも気軽に参加できるように配慮した結果、市ノ瀬の参加者の内訳は企業関係者が五〇%を超えており（図一）、参加者の増加や維持に大きく貢献している。また、登山を伴う一泊二日の活動（室堂、南竜ヶ馬場）でも少なからず、企業の参加者も見られ、参加者が多い年は企業参加が多い傾向がみられる（表一）。これらのことから一つの企業がそのネットワークを活かし、参加者の拡大を図ることにより、除去量（重量）の増加に貢献していると見える。参加企業も若い社員の教育、育成を兼ねて参加している事

企業、行政が連携して活動に参加することによるメリットは大きい。企業からの参加が単に一参加者だけにとどまらず、企画・運営に関わることで各々のスキルアップ、さらには企業のアピールにもなり得る。経済活動を伴うさまざまな関わり方を創出できる場にな

#### 四・環境保全活動での企業が果たす役割

例が多い。

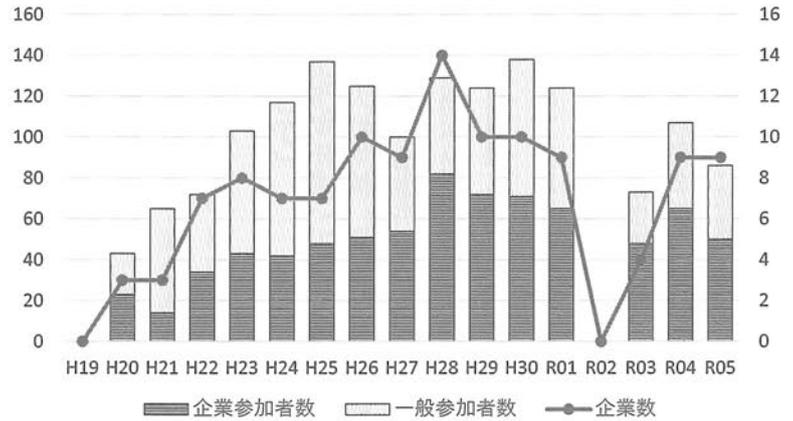


図1 市ノ瀬園地での除去活動での企業参加状況

表1 室堂園地および南竜ヶ馬場園地の除去活動での企業参加状況

活動場所	参加数	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	R01	R04	R05	
室堂	参加企業数	1	1	1	3	2	-	1	3	2	3	2	1	-	2	
	参加者数	企業	4	5	4	13	7	-	1	17	6	13	13	1	-	7
		一般	41	38	66	46	39	-	46	60	36	29	47	28	-	17
	企業参加割合	8.9%	11.6%	5.7%	22.0%	15.2%	-	2.1%	22.1%	14.3%	31.0%	21.7%	3.4%	-	29.2%	
南竜ヶ馬場	参加企業数	0	1	1	2	-	17	3	3	3	3	4	-	1	2	
	参加者数	企業	0	2	3	5	-	46	7	13	11	11	24	-	3	4
		一般	42	31	33	50	-	49	30	40	48	52	47	-	22	30
	企業参加割合	0.0%	6.1%	8.3%	9.1%	-	48.4%	18.9%	24.5%	18.6%	17.5%	33.8%	-	12.0%	11.8%	

○単なる一参加者だけにとどまらず、企画・運営に関わる

○企業の特徴、技術を活かした活動を行う

○活動を通じて関係する団体、他の企業、行政と関わり合いを生

るのではと考える。また、個人ではなく、企業として協力していることが一六年間、毎年継続して活動できていることの大きな要因である。

当社がこの外来植物除去活動をはじめ、社会貢献活動に取り組む際の姿勢は以下のとおりである。

○企業一社の社員のみでの活動にならないために、他の団体が実施する活動に参加する



市ノ瀬園地での除去活動の様子

み出す

○活動を通じ商品開発、受注拡大の発想をもつ

このような姿勢で活動に取り組むことにより、複数の企業の連携が強まり、それぞれの企業の特徴が活かされる。これによって、活動の安定化が図られるとともに、新たな発想から企業としての参加メリットとなる経済活動も創出されていくと考える。現在は筆者だけでなく、若い技術者にも活動の運営面に積極的に関わるように促しており、さらに長期的に活動が継続するために布石を投じている。

今後に関わる人、企業、団体、皆で工夫してより充実した持続可能な活動にしていくとともに、白山の魅力の後世に残すことができよう努めていきたい。

**稲葉 弘之** ●いなば ひろゆき

アルスコンサルティング株式会社勤務し、環境アセスメント、野生生物調査業務に従事する。白山国立公園の関連業務では生物調査の他、登山道等の設計や管理運営計画にも関わる。また、当社が正会員であるNPO法人環白山保護利用管理協会の理事として外来植物対策事業の企画運営を行うとともに、環境省の白山生態系維持回復事業に基づく専門委員会の委員として活動する。